

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2016年10月号

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第578号

子どものころ、神社や寺の境内で遊んだ経験を多くのかたが持つておられることだろう。いつでもだれでも入ることのできる空間があつて、子どもたちが遊び、時に悪さをしている。散歩に来られるかたがあり、日向ぼっこをする年配者のかたがおられる。本堂の軒下でよもやま話をして

筆者が属する教会は、現在新会堂建設の準備中である。建設のコンセプトの中心となる言葉に、open for allを掲げた。正面はガラス貼りであり、入り口からすぐのところ比較的広い部屋を設けた。社寺の境内にあたるような「広場」になつてほしいという願いからである。

キリスト教会のなかに、「開かれた教会」を標語として掲げているところが少なからずある。それにもかかわらなく、教会は相も変わらず入りやすく、敷居が高い場所のようだが、礼拝に出てみようと思つても、受付で人が待ち構えているだけで尻込みをするという声を聞く。そればかりか、根掘り葉掘り個人情報聞き出されることがある。丁寧な応

対、親しみを込めた応接のつもりが、逆の効果をもたらしている。「開かれた教会」と言いながら、多くの人に来てほしいという願望を表した言葉にすぎず、自らを少しも開いてはいないということではないか。

格差という言葉では表現不十分なほどに、底辺に追いやられた人たちがいる。福島や

社寺の境内



日本クリスチャン・アカデミー評議員 横野 朝彦

沖繩の人々がおかれた状況は、棄民という言葉が当てはまると思えてならない。

それらに関心を示すことなく、己の関心事に閉じこもり、さらに言えば、作られた信仰信条に閉じこもつていて、どうして「開かれた教会」と言えようか。また、ようやく意を決し礼拝に出てみると、聖礼典への参加を拒まれること

る。

ニコライ教会にとつて、この言葉はもっと大きな意味を持つている。ライプツィヒは旧東ドイツにある。一九八二年、フェーラーという牧師が

毎週月曜日に「平和の祈り」という集会を開いた。そしてその宣教姿勢が Offen für Alle であつた。そこに平和や環境、人権の問題にかかわる人たちが多数集まる。そして

集いの後に、人々は街頭に出て平和を訴えていった。

一九八九年、教会の「平和の祈り」とそのあとのデモの参加者は七万人となつた。その後一ヶ月を経ずに、東西を隔てる壁は崩壊する。東西ドイツの壁が打ち破られるにあたり、ニコライ教会の祈祷会が大きな役割を果たしたのだった。

そのことを考えると、Open für Alle は、どなたでもどうぞということよりも、もっと深い意味のあることがわかる。それは、人と人を隔てる壁、民族と民族、国と国を隔てる壁、また社会的ゆがみや格差によつて生じた壁、そしてまた敵意や、ある国や集団を敵と見なす壁を開いていく祈りではなからうか。

キリストチャン・アカデミーは教会ではない。ましてや伝道団体でもない。例えて言えれば、誰でもが出入りできる境内のようなものだろうか。本堂に入る必要はない。

そこで過ごされる時や、交わされる言葉が、隔ての壁を打ち破る萌芽のひとつにでもなることができればと思う。(日本基督教団番町教会牧師)

関東活動センター

●2016年度 関東フォーラム 今日的課題 共催プログラム
「人と出会い、現場と向き合う」飛田雄一さんに聞く、私とキリスト教と多民族・多文化共生」

講師 公益財団法人神戸学生青年センター館長 飛田雄一さん
応答 在日大韓基督教会在日韓国入問題研究所長 佐藤信行さん

会場 日本キリスト教会館1階
共催 早稲田奉仕園



佐藤信行さん

飛田雄一さん

神戸学生青年センター館長の飛田雄一さんをお招きし、「人と出会い、現場と向き合う」飛田雄一さんに聞く、私とキリスト教と多民族・多文化共生」と題してお話を伺

いました。九月五日に開催されたこのイベントは、公益財団法人早稲田奉仕園の呼び掛けにより、奉仕園と日本クリスチャンアカデミー関東運営委員会の共催という形で開催となりました。月曜日にもかかわらず定員を大きく上回る三十名ほどの方がご参加くださり、終始和やかな雰囲気の中で進められました。

今回は飛田さんがこの四月に「現場を歩く現場を綴る日本・コリア・キリスト教」(かんよう出版)と題した著書を上梓されたのを機に企画されました。

飛田さんは大学卒業の

後、一九七八年に財団法人神戸学生青年センターに就職され、一九九一年から現在まで同センターの館長を務めていらつしやいます。そして、そのお働きの傍ら、在日コリアンをはじめとした在日外国人の人権問題に長年取り組んでこられました。今回の講演では、神戸学生青年センターとの関わりも交えながら、飛田さんから今までの歩みと取り組みを広くご紹介いただきま

朝鮮人史を研究している出席者のお一人も、「文字に起こすとすぐくいい資料になる」と話していました。

した。飛田さんはレジュメにそって淡々とお話くださるのですが、その取り組みの幅広さに大変驚かされました。学生時代に関わりのあったベトナム反戦運動から、在日コリアンの人権を巡る裁判闘争、指紋押捺反対運動、ニューカマー外国人の治療費を巡る裁判、中国との関わり、コリアンの足跡をたずねる中央アジアへの旅、そして地元神戸の歴史を掘り起こす取り組みなど。飛田さんは本当に淡々とお話になるので、うつかりひとつひとつを軽く聞いてしまいそうになるのですが、どのエピソードも市民運動の文脈において、とても重要なものばかりでした。在日

講演に続いて、在日大韓基督教会在日韓国入問題研究所RAIK所長の佐藤信行さんをお応答者にお迎えして対談を行いました。飛田さんと佐藤さんとの出会いは、佐藤さんが一九七〇年代に『季刊三里』の編集者をされていたときにまで遡ります。佐藤さんから飛田さんに原稿依頼を行ったのが最初の接点だということでした。それ以来、神戸と東京、それぞれの場所でお二人とも在日外国人の人権問題に取り組んでこられました。

お二人の対談の中でも印象的なお話を多く伺うことができましたが、ひとつ印象に残った言葉をご紹介します。「目の前主義」と思っています。「目の前主義」という言葉です。目の前に取り組まなければならない課題があれば、それに取り組む、ということ。なぜその課題に取り組むのか、「それがどれほど大きな問題であるのか」、情緒的に語る前に、あ

に取り組み続ける、おおよそそのような姿勢を指します。これは、飛田さんと佐藤さんに共通する姿勢のように感じられ、二人の大先輩の生き方、取り組み方は鋭い問いとして投げかけられるものでした。

今回は、普段コーディネーターとして講師を招くことの方が多い飛田さんを東京にお招きしまとまった形でお話を伺う、実は珍しい機会となつたと思います。飛田さんからもなつかしい友人に会うことができたとお話をいただきました。飛田さんは新著の前書きで、「私は基本的には現場主義だ。勉強があまり好きではないということもあるが、現場で動きながら考えるという方法が似合っていると思う。(中略)学生センターは出会いの場であるが、『人と人』『人とテーマ』『テーマとテーマ』が出会うところであると思う」と述べられています。飛田さんを囲むこの集いが、新たな出会いそして再会の「現場」となったことも、嬉しいことのひとつでした。

関西セミナーハウス活動センター

●2016年度「開発教育セミナー」第1回(協力プログラム)
「開発教育入門セミナー」
Think Globally, Act Locally
「足もと」と「世界」をつなぐ

2016年6月26日(日)
会場 京都市国際交流協会
主催 (独)国際協力機構 関西国際センター(「JICA関西」)
(公財)京都市国際交流協会



6月26日(日)、開発教育入門セミナー(JICA関西主催)にて、「開発教育とアクティブラーニング」を考える全体会に引き続き、午前・午後各2つのワークショップが実施された。ここでは午前

Aの「難民」と同じ時代を生きる人々」についてレポートする。

はじめに、参加者間で「平和を感じる時」についてインタビューした。福島出身の参加者は心配事が何もないことが平和だと話した。体験を通じた交流から、対極にいる難民へと想像が繋がった。

次に、逃がれている6つの場面の写真を使い、気づいたことを話し合い、その後クイズで現状や歴史など、難民についての理解を深めた。写真やクイズから学ぶことで緊張がほぐれ、和やかな雰囲気学び合った。

続いて、グループで家族になり、逃げる場面をシミュ

レーションし、その後、シリア難民のヨーロッパへの移動を映像で確かめた。持ち出す荷物を決めたり、入国カードに必要な事項を書き込んだりしながら、実際に起こっていることを疑念的に体験することで、より共感的に理解できた。また、ふりかえりでは、参加者がこれからのどのように関わっていくのかを考えた。今年度の入門セミナーは初めての参加者が多く、多様で丁寧な教材と進行により、それぞれテーマに関する関心と理解が深まったという感想が多く寄せられた。

●2016年度「開発教育セミナー」第2回
「地球市民を育むアクティブラーニング」

講師 東京大学教育学部 橋本 涉さん
所属 附属中等教育学校
2016年7月9日(土)〜10日(日)



セッション①…シティズンシップ教育は、虐げられた人々や声にならない人々の声を前に出すことを大事にし、そのためには所得の低い家庭の子どもも自らの暮らしを語れるように、一人ひとりに政

治的なりテラシーを育ていくことがねらいの一つとされている。TPPに関わる授業では、配布された資料を基にリカードの自由貿易論とリストの保護貿易論を具体的に對比させながら、仮想の2国が自由貿易を始めることに対して、どうしていくべきかをグループで検討した。

セッション②…穀物市場のシミュレーションの授業では、人と牛の穀物消費の状況により3種類の国を想定し、必要な需要に応じて穀物を購入する1単位あたりの価格を

各グループで検討した。競争入札で資金の豊富な国の高い価格に決定されると、資金の乏しい国では、飢餓状態が起きるのを実感できた。

セッション③…子どもたちに批判的な思考力を育てるためには、あらゆる価値に出会わせ、いろんな立場に触れておくことが大事になる。そのため、授業者は子ども意見の偏りを見抜き、授業の中で逆の立場の意見を出しながら思考を揺さぶる場面も求められる。その後、更なる資料を基に自由貿易を受け入れるべきかどうかを検討し、グループで合意していくための議論を重ねた。子どもたちは、国家が重要だと考えがちなが、貿易によって誰が利益を得て誰が有利になるのかという視点や国家は誰を守り誰を支援しているのかと常に問いつながり判断することが重要になること。

最後に、フィリピンの高校で日系企業の進出に対して議論する教室の映像を見た。いろいろな考え方や自分の暮らしと重ねながら子どもたちが熱く討議する姿に市民としての育ちを感じた。

プログラム案内

◆関東活動センター

■聖書講座2016「新しい聖書の学び」

「いのちの糧の分かち合い」(全9回)

講師:山口 里子さん(日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時:2016年4月~2017年1月(8月除く)第2火曜18:30~20:00 ⑦11月8日、⑧12月13日、⑨2017年1月10日

会場:早稲田奉仕園スコットホール

参加費:1,200円/学生500円

テキスト:『いのちの糧の分かち合いーいま、教会の原点から学ぼう』新教出版社

共催:早稲田奉仕園

■2016関東フォーラム 今日的課題II

「古典で読む20世紀第三期」(全4回)

第4回「歴史意識の<古層>」

ファシリテーター:武田 利邦さん

(農村伝道神学校講師)

日時:2016年11月11日(金)

18:30~20:30

会場:日本キリスト教会館6階

フォークトルーム

参加費:500円

テキスト:丸山真男「歴史意識の『古層』」(『忠誠と反逆』ちくま学芸文庫)

■共催プログラム

<NCC在日外国人の人権委員会公開セミナー>

「共に生きるためにわたしたちができることーヘイトスピーチ解消法成立後に残された課題ー」

講師:師岡 康子さん(弁護士)

財団本部 http://www.academy-nippon.com
関東活動センター http://www.academy-tokyo.com
関西セミナーハウス http://www.kansai-seminarhouse.com/
関西セミナーハウス活動センター http://www.academy-kansai.org

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー 代表理事 小久保 正

本部事務局 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23 TEL 075-711-2147 FAX 075-701-5256

関東活動センター 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 日本キリスト教会館6F TEL 03-3207-6198 E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス / 関西セミナーハウス活動センター 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23 TEL 075-711-2147 FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス TEL 075-711-2115 E-mail:info@kansai-seminarhouse.com
関西セミナーハウス活動センター TEL 075-711-2117 E-mail:office@academy-kansai.org

日時:2016年11月18日(金) 19:00~21:00
会場:日本キリスト教会館6階
参加費:無料
主催:日本キリスト教協議会(NCC) 在日外国人の人権委員会

■共催プログラム

第2回 柏木義円公開講演会 「柏木義円の報じた湯浅治郎の廃娼運動での働き」

講師:山下 智子さん(新島短期大学准教授)

日時:2016年11月26日(土) 14:00~16:00

会場:日本キリスト教会館6階
参加費:1,000円、学生500円
主催:柏木義円研究会

◆関西セミナーハウス

■月釜 清心会

日時:2016年11月13日(日)、12月11日(日) 9:00~15:00 受付(1,8月を除く年10回)

於:関西セミナーハウス
年会費:5,000円、臨時会費1,000円

◆関西セミナーハウス・関西セミナーハウス活動センター共催

■2016年もみじまつり 日時:2016年11月23日(水祝) 9:00~16:30

会場:関西セミナーハウス お茶席、邦楽席(箏演奏) 版画作品展一所蔵コレクションよりーフルートとピアノによるもみじまつりコンサート

フルート 園城 三花さん
ピアノ ナネツテ クリスチアン グレットコさん
前売:3,000円(お茶席、弁当付)

◆関西セミナーハウス活動センター

■2016年度お茶のころと宗教のころ-2

「聖書をいっしょに読みましょう」(全5回)
座長:榎本 栄次さん(日本キリス

ト教団牧師) 日時:2016年11月2日(水) 13:30~16:00
会場:関西セミナーハウス
参加費:1,500円学生500円(抹茶含む)
定員:10名

■2016年度開発教育セミナー

第5回「支配されるタネ~食料主権と持続可能な社会」<オプションあり>

講師:西川 芳昭さん(京都精華大学人文学部)

日時:2016年11月5日(土)16:00~6日(日)12:00

会場:関西セミナーハウス
参加費:10,500円(1泊2食込)
オプション:映画「誰のためのTPP?ー自由貿易のワナ」11月5日 14:00~15:30 カンパ制

■2016年度修学院フォーラム「社会」

第2回「宗教と戦争を考える<2>新約聖書における暴力からの脱却について」

講師:浅野 淳博さん(関西学院大学神学部教授)

日時:2016年11月12日(土) 13:30~17:30

会場:関西セミナーハウス
参加費:一般2,300円、学生1,000円

第3回パネルディスカッション 「SEALDsが問いかけたものーあなたはどうしますか?」

パネラー:片岡 希望さん(同志社大学文学部学生)野間 陸さん(同志社大学神学部学生)中村 あゆ美さん(安保関連法に反対するママとみんなの会@京都)早瀬 和人さん(日本キリスト教団宇治教会牧師)

司会:榎本 栄次さん
日時:2016年12月3日(土) 13:30~17:30

会場:関西セミナーハウス
参加費:一般1,000円、学生500円

賛助会費・寄付金報告

2016年8月1日~8月31日 (順不同・敬称略)

- ◆財団本部 日本基督教団早稲田教会 25,000
- ◆関東活動センター 寄付金 小林 義彦 3,000 吉見 崇一 2,000 加藤 真規子 3,000 伊与田 ユキ子 5,000
- ◆関西セミナーハウス 寄付金 中村 信博 10,000 山崎 満 5,000 長谷川 義紘 10,000 初田 勝 10,000 中村泰洋園 10,000

- 武田薬品京都農園糊睦会えんじゅ会 10,000 森口 維邦子 10,000 岡本 仁彦・泰子 10,000 小久保 正 10,000 津田 友一 5,000
- ◆関西セミナーハウス活動センター 賛助会費 桜井 希 5,000 蒼倉 道隆 3,000 奈原 茂樹 5,000 金山 顕子 5,000 関西青年アシュラム 10,000 椿本 博久 5,000 都木 かおり 3,000
- 寄付金 小崎 真 10,000
- 以上、感謝をもってご報告申し上げます。